

松花堂昭乗イラストコンテスト記念イベント

わくわく文化体験day

大学教授 漫画語る 軽妙 創作講談

子どもにもイラスト指導も

市制施行45周年記念事業の一つである松花堂昭乗イラストコンテストの記念イベント「わくわく文化体験day」が9月4日、松花堂庭園・美術館で開催し、小中学生16人が参加しました。

このイベントは、同コンテストのPRと本市の文化に触れて、市の魅力を認識してもらうことが目的。

京都精華大学マンガ学部教授の吉村和真さんの講演では、漫画を読み描きする能力(マンガ・リテラシー)について触れ「漫画に接することが多い日本では、幼いころから漫画を読む力が自然と身に付いている」と考察。



①吉村教授からアドバイスを受ける子ども
②玉田玉秀斎さんによる創作講談

また、講談師の四代目・玉田玉秀斎さんは松花堂昭乗をテーマにした創作講談を披露。

講談後のイラスト作成に挑戦した子どもたちは、吉村さんたちから「メリハリをつけるため、強い線も入れよう」「毛並みを書く」と、動物の質感が出る「など」と助言を受け、イラストを完成させていました。

作品募集中

イラストコンテストの作品を11月30日(水)まで募集中。申込方法など詳しくは、市ホームページをご覧ください。

今年度23人

100歳に

9月19日は「敬老の日」。今年度に100歳を迎えられる市民は23人おられ、堀口市長は17日、そのうち自宅で生活されている6人を訪れ、長寿をお祝いしました。

来年1月に100歳を迎えられる林スミさんは、市長から賞状と記念品が贈られると「ありがとうございます」と、感謝を述べられました。

息子さん夫婦と3人暮らしの林さん。週2回通うデイサービスでは「皆さんと歌ったり、折り紙で部屋の

飾りつけをしたりするのが楽しみ」と話されます。また、時代小説や週刊誌、報道番組などを見るのが大好きで、世の中の出来事について知見を深め、考える時間を大切にされています。

長生きの秘訣については「気持ちは70歳代くらいのまま。みんなに優しくしてもらい、楽しく過ごしているのが良いのかもね」と笑顔で話されていました。

市長が6人訪問 長寿祝う



市長から賞状を受け取る林さん

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

おじいちゃん おばあちゃん

*園児40人ハガキ送る

だいすき

9月16日、八幡第三幼稚園の3〜5歳児40人が、祖父母に宛てたハガキを郵便局のポストに投函しました。

同行事は、いつも園児を大切にしてくれる祖父母へ日ごろの感謝の気持ちを届けようと、「敬老の日」にあわせて市内の幼

敬老の日



ポストにハガキを投函する園児

稚園で毎年実施。祖父母から返事がもらえるよう、往復ハガキを使用しています。

園児はこの日までに、一人一枚ずつ思いをつづったハガキを準備。祖父母の似顔絵を描いたり、園で育てたオクラで作ったスタンプで飾りつけたり、「げんきでいてね」「だいすき」など、手書きのメッセージを添えました。

園の近くの郵便局のポストに、一列に並んで順番にハガキを投函。無事に届くようみんなの手を合わせて「お願いします」とおいのりしていました。

今月のこの人 外国につながりをもつ子ども 居場所づくり



堀部 裕美さん

京都府国際センターで日本語教室の講師を務める傍ら「イー・ジョーランゲージ・ジャパニーズ」が実施する外国につながる子どもにも日本語を教える活動に参加。男山在住。

「外国人が困ったときに助けてくれる人を増やす手助けがしたい」と。そう話すのは、京都府国際センターで日本語教室の講師を務める堀部裕美さん。

現在、八幡市には約2千人の外国人住民が暮らしていますが、日本語が理解できずに地域社会に溶け込めずにいる人もいます。

そこで、自宅や学校以外に外国人の子ども居場所づくりに

興味を持った堀部さんは、昨年7月から、男山団地中央センターにある住民の交流拠点「だんだんテラス」で行われる日本語教室にも支援者として参加しています。

教室には、シリアやフィリピン出身の子どもが参加。学校の宿題を教えるほか、やさしい日本語ですごろくのゲームをするなど、楽しんで日本語が学べるよう工夫しています。

堀部さんは「言葉が分かれば状況は良くなる。子どもが周囲の人と交流し、安心できる居場所があれば、将来にも良い影響が与えられる」と、今後も日本語教室を通じ、地域住民と外国人住民との交流の手助けを続けていきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。